

## 偲び草

## 古賀智敏先生の御逝去を悼む

與 三 野 禎 倫



わが国会計学の進むべき道を、常にその卓越した知見で照らしてこられた古賀智敏先生が、2025年5月5日、77年のご生涯に幕を下ろされ、永眠されました。先生と生前にご親交のあった学友の一人として、ここに深甚なる弔意を表し、その偉大なご功績を偲びたく存じます。

1971年のイリノイ大学ご留学、そして米国大手会計事務所での実務経験で培われた深い知見と国際感覚を携え、先生は1982年に龍谷大学で研究者としての一步を印されました。ご在職中は紀要に毎号欠かさず寄稿されることを信条とされ、その真摯な研究姿勢は1990年のご著書『情報監査論』として結実します。本書は翌91年に日本公認会計士協会学術賞の榮譽に輝き、先生の名を会計学界に不動のものとした画期的なご業績でした。

その後、先生は財務会計へと研究の地平を広げられ、1996年には、当時まだ黎明期にあったデリバティブ会計の本質を喝破した名著『デリバティブ会計』を世に問われました。同年、栄えある日本会計研究学会太田・黒澤賞を受賞された本書は、今なお会計学史に輝く不朽の金字塔として、我々後進の道標であり続けています。それに続く2005年の『知的資産の会計』をはじめとする数々の先駆的なご研究が遺されたご功績は、刊行された著作リストを遥かに超え、我々一人ひとりの心に深く刻まれております。

先生の研究にかける情熱は、学会活動においても遺憾なく発揮されました。早くから日本会計研究学会の発展に尽力され、1999年には特別委員会の委員長としてデリバティブ会計研究を主導し、その成果を編著『ファイナンス型会計の探究』として結実させられました。その後も、長きにわたり本学会の評議員、理事、機関誌編集委員長といった要職を歴任され、その卓越したリーダーシップで学会運営を力強く牽引されました。特筆すべきは、日本会計研究学会賞ならびに太田・黒澤賞の審査委員を三期、実に12年もの長きにわたってお務

めになったことです。その公正無私にして温かい眼差しは、多くの若手研究者の功績を的確に評価し、その未来を拓く大きな力となりました。

先生が生涯をかけて示された研究者としての崇高な姿勢を、我々は継承していかなばなりません。ご病気が判明してからのあまりにも早いご逝去が痛恨の極みであり、叶うならばさらに多くのご教示を賜りたかったと、悔やまれてなりません。これは

先生を慕う者すべての共通の思いでしょう。今なお先生の温和な眼差しと、真理を見抜く鋭い知性が私たちを鼓舞してくれているようです。国際的な視座から経済と企業の本質を論じられた学術的遺産を継承し、発展させていくことを固く誓います。

古賀智敏先生、どうか安らかにお休みください。先生から賜りました数多のご恩に、心より感謝申し上げます。

(筆者・神戸大学准教授)

---